

2. LGBTが直面している問題について ～LGBTが困りやすいことってなんだろう？～

学校

いじめや暴力*を受けたことがあるLGBTは、**約68%**というデータがあります。

*身体的暴力・言葉による暴力・性的な暴力・無視・仲間はずれのいずれか



(出典:いのちリスペクト。ホワイトリボン・キャンペーン、平成25年度東京都地域自殺対策緊急強化補助事業「LGBTの学校生活に関する実態調査(2013)」)

性同一性障害者の**58.6%**が自殺念慮*を持ち、**28.4%**は自傷・自殺未遂を経験したというデータがあります。また、「性同一性障害者が自殺念慮を持つ年齢の第1のピークは、思春期である中学生の頃」と言われています。

*死にたいという思い

(出典:中塚幹也(2010)「学校保健における性同一性障害—学校と医療の連携—」『日本医事新報』60-64: 4521)

厚生労働省の『自殺総合対策大綱』には、「自殺念慮の割合等が高いことが指摘されている性的マイノリティについて、無理解や偏見等がその背景にある社会的要因の一つであると捉えて、教職員の理解を促進する」と明記されています。

学校教育においては、セクシュアリティの多様性やLGBTに関して知る機会が少なく、子どもたちへの情報提供が不足していることが課題となっています。

教育現場では、平成27年4月「性同一性障害に係る児童生徒に対するきめ細かな対応の実施等について」の文部科学省通知や、平成28年4月に配布された周知資料*をもとに、支援や配慮等の取組が行われています。

*性同一性障害や性的指向・性自認に係る、児童生徒に対するきめ細かな対応等の実施について(教職員向け)
http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/28/04/_icsFiles/afieldfile/2016/04/01/1369211_01.pdf

県内のLGBTの人の声

🔊 制服など、あらゆる場面で男女分けをされたり、立ち居振舞いなどを性別によって強制されたことがつらかったです。(20代MtX*トランスジェンダー)

🔊 大学の授業で、「恋愛は異性愛だけではない、同性を好きになるのは異常な事ではない」と教えてくれる先生がいます。学びの場でそういった事を教えてくれるのが嬉しかったです。(20代レズビアン)

*<からだの性>が男性で、<こころの性>を男女どちらかに分けない人

職場

トランスジェンダーの約70%、同性愛者や両性愛者の約44%が、求職時にセクシュアリティに由来した困難を感じています。その原因として、職場や就労支援機関の理解が進んでいないことが考えられます。

(出典:LGBTに関する職場環境アンケート2016
特定非営利活動法人虹色ダイバーシティ 共同研究:国際基督教大学ジェンダー研究センター)

■LGBTが職場で困ることとは?

① 人間関係・ハラスメント

- ・周囲の理解不足により、差別やハラスメントを受ける
- ・カミングアウトができず、自分らしく働けない
- ・困りごとを相談できず、深刻化しやすい

② 制度・福利厚生

- ・望む形で働くための支援・制度がない
- ・配偶者に対する福利厚生制度が、同性パートナーに適用されない

③ 設備などの男女分け

- ・服装、トイレ、更衣室、健康診断、宿泊時の風呂・部屋などの男女分けにより、特にトランスジェンダーが困りやすい

④ 求職時

- ・LGBTの人が安心して働ける職場の情報がない
- ・面接官等の理解不足により、差別的な対応やハラスメントを受ける

■LGBTに対する性的言動はセクハラです!

厚生労働省は、「事業主が職場における性的な言動に起因する問題に関して雇用管理上講ずべき措置についての指針」において、被害を受けた者の性的指向又は性自認にかかわらず、当該者に対する職場におけるセクシュアルハラスメントも、本指針の対象となることを明確化する改正を行いました(平成29年1月1日施行)。指針では、職場におけるセクシュアルハラスメントに関する方針の明確化や相談体制の整備等、企業における防止措置が義務付けられています。

県内のLGBTの人の声

🔊 上司達に彼女はいないのかと聞かれ続け、ずっと「いない」と答えていたら「お前コッチ系か! やっぱり男が好きなのか!」と笑いのネタにされました。(20代ゲイ)

🔊 カミングアウトをしたら、トイレやロッカーも好きな方にして良いとすぐに対応してくれて嬉しかったです。(30代FtMトランスジェンダー)

🔊 職場で陰口を言われることもありますが、好きな仕事につき、周りの友人達にも支えられて前向きに頑張っています。(60代MtFトランスジェンダー)

社会生活等

LGBTのうち、約34%が年収200万円以下であることや、LGBの約25%、Tの約35%がうつを経験したことがあるなど、LGBTは社会生活においても多くの課題を抱えています。

(出典:LGBTに関する職場環境アンケート2015
特定非営利活動法人虹色ダイバーシティ 共同研究:国際基督教大学ジェンダー研究センター)

■災害時

LGBTの人は、災害時には以下のような特有の困難に直面するため、配慮が必要となります。

《発生直後・避難期》

- ・同性パートナーと避難した際の、避難所でのプライバシーの確保。
- ・生理用品、下着、ヒゲソリなど、男女別の物資が受け取りにくいこと。
- ・男女別に設置されたトイレ、更衣室、入浴施設は使えないこと。

《復旧・復興期》

- ・仮設住宅等の入居要件に「世帯」と書かれているため、同性パートナーと暮らせるのが不安。

(出典:岩手レインボー・ネットワーク「にじいろ防災ガイド」)

相談窓口の明確化や、LGBTについての理解を深めるための研修の実施など、行政機関や学校、企業等がLGBTの人も安心して相談支援が受けられる環境づくりに取り組むことが必要です。